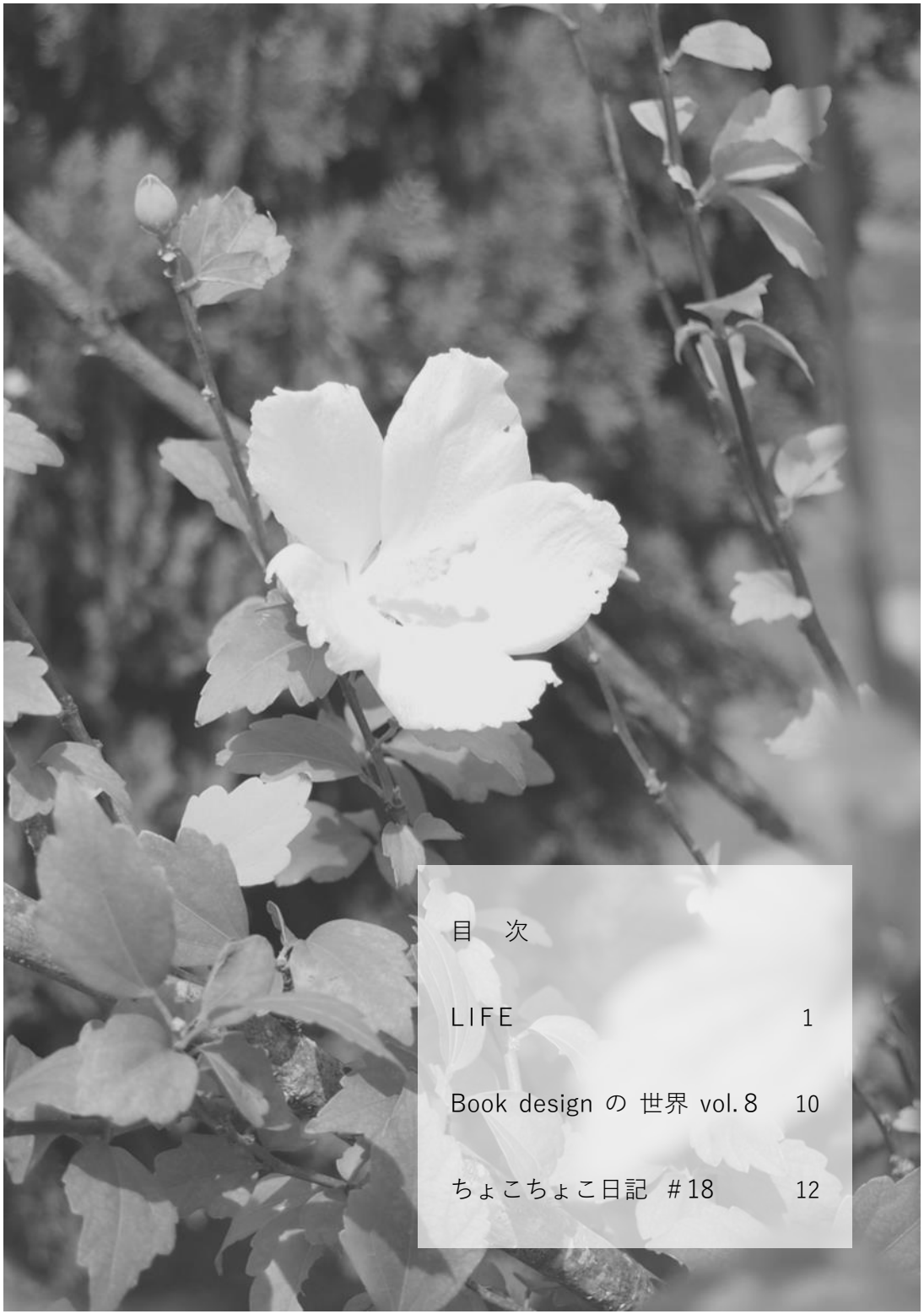
三重短期大学附属図書館

LIFE

こんな本読んでみて

August－September　2019

No.78



目　次

LIFE　1

Book design の 世界 vol.8　10

ちょこちょこ日記 ＃18　12

LIFE

「ＬＩＦＥ」にはこんな意味があります。

― 生命、生物、人生、一生、生活 ―

日々の生活。長い人生。遥かなる生命。

「ＬＩＦＥ」をみつめる本、あります。

『カレーライスを一から作る 関野吉晴ゼミ』

前田亜紀 著

ポプラ社　2017年

596.3||Ma 26

カレーライスを作ったことはありますか？この本はそのタイトルの通り、野菜、お肉、お米、塩、スパイス、器、スプーン…カレーライスのすべてを一から作ることに挑戦した９か月の記録です。冒険家の関野吉晴さんのゼミに参加した学生が、それぞれ苦労や葛藤を乗り越える中で得た多くの気づきは何物にも代えがたいものでしょう。関野さんの「答えはすぐに出なくていい」という思いに励まされます。

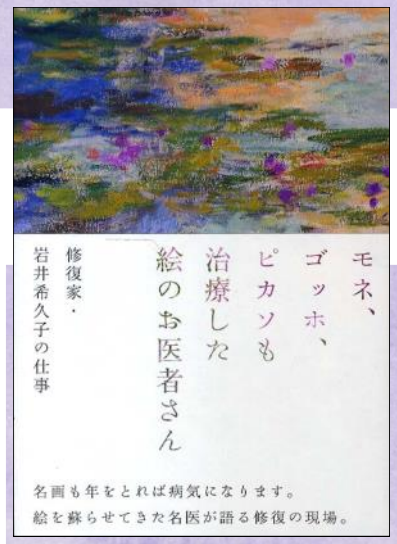
『キッチハイク！ 突撃！世界の晩ごはん』

山本雅也 著

集英社　2017年

383.8||Y 31

旅の目的が「食べること」というのはよくあることですが、それが家庭のごはんだったらどうでしょう？この本では、旅先の見知らぬお宅を訪ねてごはんを食べるという、キッチンのヒッチハイク＝キッチハイクが紹介されています。食を通じた壮大なコミュニケーション。誰かと一緒に食べるということの意味や可能性を感じられる一冊です。



『モネ、ゴッホ、ピカソも
治療した絵のお医者さん
修復家・岩井希久子の仕事』

岩井希久子 著

美術出版社　2013年

724.9||I 93

日本の絵画修復の第一線で活躍される岩井希久子さんが、修復の重要性を伝える本書。絵画の修復は、基本的に色を塗り直すことはせずに、汚れをクリーニングすることが基本なのだそうです。それぞれの作品に合わせた方法で、繊細で気の遠くなるような修復作業を行います。昔の様々な作品を今でも見ることができるのは、こうした職人の技のおかげなのだと痛感します。

『将棋の子』

大崎善生 著

講談社　2003年

796||O 69

プロ棋士養成機関の奨励会で、プロを目指す天才少年たち。ほんのわずかな差で、年齢制限によって退会を迎える、厳しい世界が描かれます。その先には何があるのでしょうか。幸せを願って見守る視点が印象的な一冊です。

第23回(2001年)講談社ノンフィクション賞受賞作。

『命の意味　命のしるし』

上橋菜穂子，齊藤慶輔 著

講談社　2017年

461||U 36

NHK Eテレ「SWITCHインタビュー 達人達」をもとに書籍化したもので、作家の上橋菜穂子さんと獣医師の齊藤慶輔さんの対談から真摯な想いが伝わってきます。なぜ物語を書くのか、物語に込められた想いとは。野生動物のお医者さんとして、日々命と向き合うということとは。お二人それぞれの視点から、生きるという事を考えられる一冊です。

『鳥類学者だからって、

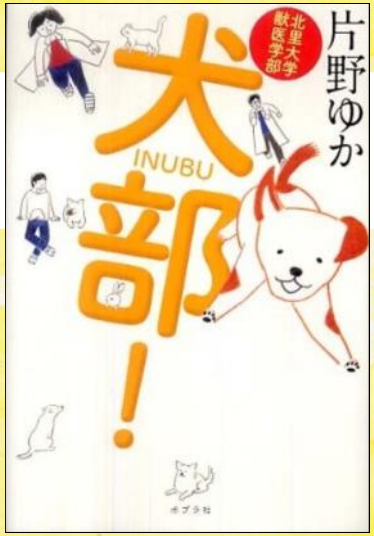
鳥が好きだと思うなよ。』

川上和人 著

新潮社　2017年

488.04||Ka 94

書き出しの言葉が絶妙で、テンポよく綴られた文章がクセになります。まるで鳥類学者の川上和人さんの調査研究の様子をすぐそばで聞いているようです。鳥をはじめとした生き物のことから、まさかのキョロちゃんの考察まで、楽しみながら読めます。



『北里大学獣医学部　犬部！』

片野ゆか 著

ポプラ社　2010年

645.6||Ka 82

青森県にある大学のサークル活動を記録した一冊。犬部というサークルでは、行き場をなくした犬や猫を保護して、新しい飼い主を探す活動をしています。救った一匹一匹に忘れられない思い出があり、大切に向き合っている様子が伝わってきます。新しい飼い主が決まることを「卒業」と呼んでいて、別れる時のメンバーの想いに胸を打たれます。

『完全版　この地球を受け継ぐ者へ
地球縦断プロジェクト
「Pole　to　Pole」全記録』

石川直樹 著

筑摩書房　2015年

290.9||I 76

高校２年生の頃から数々の冒険をしてきた石川直樹さん。２２歳の時、北極から南極まで人力踏破するというアドベンチャープロジェクトに参加します。壮大な旅の中で書いた日記をまとめた一冊です。旅を終えた時に思うこととは。ぜひ読んでみてください。

LIFE

Book design の世界

vol. 8

佐藤 亜沙美 さん

(サトウサンカイ)

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

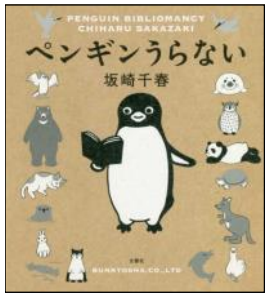
本のデザインをする仕事を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

第８回目は 佐藤亜沙美さん です。

佐藤亜沙美さんは、前回「Book design の世界 vol.7」でご紹介した祖父江慎さんの事務所「コズフィッシュ」に2006年から2014年まで在籍されていました。2014年には、デザイン事務所「サトウサンカイ」を設立。色々なジャンルの本のデザインの他、CDジャケットのデザインなども手掛けられ、2019年より文芸誌「文藝」のアートディレクターを務められています。

一冊目は**『出会い系サイトで70人と実際に会ってその人に合いそうな本をすすめまくった1年間のこと』**(花田菜々子著／河出書房新社／2018年／913.6||H 27)をご紹介します。書店員が本と人との出会いを通じて人生を開いていく私小説です。インパクトのあるタイトルが、蛍光イエローの中で引き立っています。浮かんでいる女の子や本など(ツチノコもいる！)内山ユニコさんの装画が使われ、この本の持つ不安と期待を感じさせるデザインです。

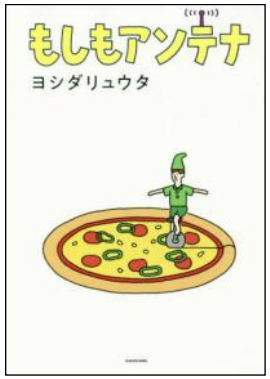
装画：内山ユニコ
サイズ：19×13×2cm



サイズ：15×13×2cm

次は『ペンギンうらない』(坂崎千春著／文響社／　2018年／148.9||Sa 39) です。人気キャラクター作家 坂崎千春さんによる「書物占い」。カバーに使われているクラフト紙の温かさ、表紙を開くとラッピングペーパーみたいで、プレゼントを開くような気分になります。毎日の中にある特別感が演出されています。大切にしたいと感じる一冊です。

『もしもアンテナ』(ヨシダリュウタ著／KADOKAWA／2018年／726.5||Y 86) は、身の回りのものたちが「もしもこうだったら」を集めたイラスト集。SNSでも人気のイラストが、本という形を活かして、楽しく詰まった一冊です。かわいくておもしろい「もしも」の世界に導かれるブックデザインです。



サイズ：21×15×1.5cm

今回、最後にご紹介するのは**『観察の練習』**(菅俊一著／Numabooks／2017年／757||Su 31)です。この本では、NHK Eテレ「2355／0655」のID映像などを手がけられた映像作家の菅俊一さんが発見した「日常の小さな違和感」から観察の練習をすることができます。表紙にもどこか違和感を感じませんか？左の表紙の画像ではタイトルが分かりにくいかもしれませんが、黒の上に黒の箔押しでタイトルが表されています。ぜひ手に取って観察してもらいたいブックデザインです。とにかくかっこいい装丁。

サイズ：15×11×2.5cm

手に取った本 一冊一冊が特別に感じられる、そんな佐藤亜沙美さんのブックデザイン。本の魅力が存分に引き出されたブックデザインにこれからも注目です。

ちょこちょこ日記 #18 「life」

今号のテーマは「LIFE」でしたが、あなたは、何か飼ったり、育てたりしていますか？

私はトマトを育て中です。先日、初収穫を迎えました。トマトが１つとミニトマトが１つ。大切にいただきました。これからの収穫も楽しみです。

今、生き物は飼っていないのですが、小学生の頃、ハムスターを飼っていました。ハムちゃんというゴールデンハムスター。ふわふわで、あったかくて、まるっこくて、大好きでした。かわいさを写真におさめたくて、写真を撮るのですが、すばしっこくてなかなか上手に撮れなくて、何だかわからないピンボケ写真を量産していました。

ハムちゃんは、カゴのふたを開けて逃げ出すことも度々あって、大騒ぎでした。タンスの隙間をのぞいてみたり、出てきてくれるようエサを置いてみたりしたこともいい思い出です。

最後にハムスターの本をご紹介。「ゆるハムさん」(藤本雅秋写真，坂崎千春文／WAVE出版／645.9||F 62)。ハムスターのかわいい写真に、あたたかい言葉が添えられて、ほっこりする一冊です。

こんな本読んでみて　No.78

２０１９年8月1日　発行

編集･発行　三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

http://www.library.tsu-cc.ac.jp/